

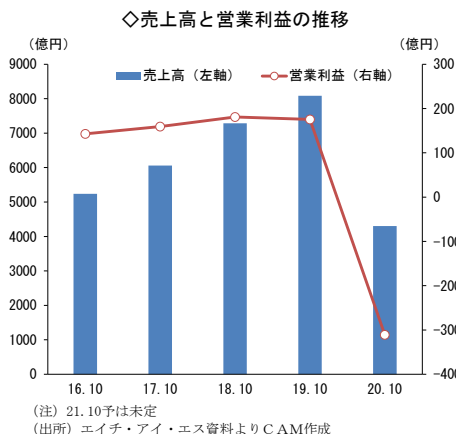
企業ニュース エイチ・アイ・エス

(東証1部: 9603) <https://www.his.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

旅行事業の回復に期待

格安航空券販売の国内最大手。国内外の旅行事業を中核とし、テーマパークのハウステンボス（長崎県）や宿泊施設を運営。電力小売りなどエネルギー事業も手掛ける。コロナ禍で主力の旅行事業が大打撃を受けているが、潜在的な旅行需要は強く、経済再開に伴い業績は回復に向かうと期待する向きが多い。足元は国内の感染再拡大による需要回復の遅れが懸念されるが、中期的な見通しは不変とみる。また、業績の低迷が続く中で手元資金の流動性確保の施策も注目される。21.10期・第2四半期末時点で向こう1年間の資金を確保しているとし、6月末には本社社屋を売却し賃貸契約に切り替えると発表。財務基盤の安定化に継続的に取り組む姿勢は評価されよう。



需要回復とコスト削減で22.10期の黒字化を目指す

21.10期・第2四半期（11-4月）の連結業績は、売上高が677億円、前年同期比80%減、営業利益が311億円の赤字、同296億円の赤字拡大（前年同期は15億円の赤字）。旅行事業は同90%減収、同163億円の営業赤字拡大。国内の移動自粛や各国の入国制限による旅行需要減の影響を大きく受けた。連結全体の利益面では店舗統廃合などコスト削減に努めたものの減収の影響が大きく、エネルギー事業における電力仕入価格の高騰も営業赤字拡大の要因となった。

21.10期の通期会社計画は、コロナ禍の影響を合理的に算定することが困難とし未定とした。新型コロナの感染状況が懸念されるが、会社は業績について現在が最悪期とみており、各国でのワクチン接種進展を背景に旅行需要が回復、コスト削減効果と合わせて22.10期には黒字化を目指すとしている。コスト削減策として人員調整に取り組んでおり、旅行需要がコロナ禍前に回復するとみられる23.10期には従来人員の約7割で対応可能な運営体制を構築する。その他の経費も削減に取り組み、21.10期の販管費は19.10期の7割程度に抑える方針。

[株価動向・投資判断]

リオープン（経済再開）銘柄の1つとして注目したい。コスト削減、財務安定化に向けた継続的な取り組みに期待したい。

<9603 HIS 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.10	808,510 (11)	17,540 (▲ 3)	17,089 (▲ 12)	12,249 (11)	213.6	33.00
20.10	430,284 (▲ 47)	▲ 31,129 (-)	▲ 31,283 (-)	▲ 25,037 (-)	▲ 432.7	0.00
21.10 予	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	未定

(注)21.10予は新型コロナウイルス感染症による影響を合理的に算定することが困難なため、未定。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/7/9)	2,583 円
年初来高値 (高値日)	2,734 円 (21/6/14)
同 安値 (安値日)	1,461 円 (21/1/5)
予想 P E R (21.10 予)	- 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	880.9 円
P B R	2.93 倍
予想配当利回り	- %
(1株当たり配当金年 未定)	
R O E (20.10)	▲ 29.3 %
発行済み株式数	7,522 万株